

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 570 号	氏名	下川 周子
学位審査委員	主 査 平山 謙二 副 査 松山 俊文 副 査 由井 克之		
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、これまで不明であったヒト腸管寄生性アメーバ <i>Entamoeba moshkovskii</i> の病原性をマウスモデルおよび流行地のコホート研究を用いて明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 マウスモデルにおいては種々の純系マウスの盲腸内に、培養した各種アメーバ栄養体を注入し、定着増殖感染状態を一定期間観察し、病原性を評価している。またコホート研究においてはバングラデシュのダッカ市内の高度流行地で 385 名の乳幼児を対象に 1426 例の下痢症例における対象アメーバの検出を行い、陽性例の臨床経過等を <i>E. histolytica</i> のそれと比較検討してその病原性を解析するとともに、個別のアメーバの DNA 解析を行ったもので、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、感受性マウスでは <i>E. histolytica</i> よりむしろ <i>E. moshkovskii</i> がより強い病原性を示すこと、コホートでの追跡調査からこのアメーバの感染により下痢症が引き起こされていることがより明確に示され、今後の病原性アメーバ <i>Entamoeba moshkovskii</i> による感染症研究の進展が大いに期待される。 以上のように本論文は病原性アメーバ感染症研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			